

原子力発電の是非を考えるために

未来を考える脱原発四電株主会

大人の人に伝えたいこと

愛媛県・小学6年生 鷲野天音

僕が住んでいる愛媛県には原子力発電所があります。

去年、ぼくが5年生の時、その原子力発電所に、フランスからMOX燃料が来ました。プルサーマル発電のためです。プルサーマル発電というのは、広島の前ぶくウラン（一般の原子力発電所の燃料）と長崎の前ぶくプルトニウム（高速増殖炉の燃料）をいっしょに核分れつさせて、タービンをまわす発電です。ウランもプルトニウムも危険な放射能を持っています。放射線というものは細胞の中の遺伝子をばらばらにしてしまうもので、ガンや白血病の原因となります。広島や長崎には、まだ今も後遺症で苦しんでいる人たちがいます。それなのに日本は世界第3位の原子力発電の国です。しかも、日本は世界第3位の火山国です。火山国だということは、地かく変動もよく起こります。もし、地しんが起きたらどうなるのでしょうか。日本に原子力発電所は望ましいのでしょうか？

もしなにも起こらなかったとしても、未来に、核のゴミとして残ってしまいます。

CO2を出さないという理由で、原子力発電がさらに新しく建とうとしています。新しく作ると、きれいな海を埋め立てて、たくさんの命をうばい、住む所をなくします。それに原子炉を冷ますために、1秒で70トンの海水を、7度上げて、海に戻すことになります。もうこれ以上ぼくたちの環境をこわすのはやめてください。ぼくたちこどもも、あと何年かすれば、大人になります。ぼくたちの未来に汚れた海や山、空気や水、核のゴミを残さないでください。ぼくたちの未来に残してほしいのは、生き物のくらせる森、川、命、希望、そして大きくなったら、こんなことがしたいという夢が叶えられる社会です。

地球の体積の99%は1000度以上あります。発電でいえば、この地球の熱を使う、地熱発電がいいとぼくは思っています。

ぼくたちも一緒にやるので、大人の人も、勉強してほしいです。

大人の人にやってほしいのは

- やりはじめたことの責任をとること。
- 前のひとのやった無責任を、解決するようにがんばること。
- こわれてしまった自然を、元に戻す努力をすること。
- それから、これ以上自然をこわさないこと、です。

未来に続く命のために美しい地球を創りましょう。

この文章は、鷲野天音（わしのあまと）さんが2009年6月に書いた作文です。

彼は2008年伊方原子力発電所でプルサーマル発電が行われることを知り、原子力発電とは何かを独自で調べました。そこで原子力発電の危険性を知った彼は「自分がやれることをやりたい」と決意。友達に声をかけ署名を集めたり、『ぼくら子どもや生物が安心して暮らせるような未来を考えてください。』との請願書を愛媛県議会に提出しました。結果は「不採択」。愛媛県の一住人・勇気ある子どもから発せられた真剣な訴えに、議会の大人たちは議論すらしませんでした。

私たち大人は、安心して暮らしていける環境を後世に引き継ぐ責任があります。原発こそ環境汚染の元凶であり、多くの生命に危機をもたらします。

私たち「未来を考える脱原発四電株主会」は、株主の立場から四国電力に伊方原発停止を訴えています。

伊方原子力発電所が10年間で放出した液体の形でのトリチウム

（原子力施設運転管理年報 平成23年度版による）単位：ベクレル

2010年	51兆	2005年	53兆
2009年	57兆	2004年	68兆
2008年	58兆	2003年	54兆
2007年	66兆	2002年	52兆
2006年	46兆	2001年	47兆
		合計	552兆

伊方原発の危険の一つに大量のトリチウム発生と瀬戸内海への放出の問題がある。これは事故を起こさなくても通常運転で液体の形で放出している。また東電資料によると、トリチウムは水素の同位体として多くは水(HTO、T2O)の形態で存在するため分離が困難。